

氏名	津 曲 兼 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3536号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Epidemiological Studies of Coincidental Outbreaks of Enterohemorrhagic <i>Escherichia Coli</i> O157:H7 Infection and Infectious Gastroenteritis in Niimi City (新見市において同時期に見られた腸管出血性大腸菌O-157感染症と感染性胃腸炎の集団発生に関する疫学的研究)
論文審査委員	教授 小熊 恵二 教授 川上 憲人 教授 辻 孝夫

学位論文内容の要旨

邑久町では見られなかった、1996年第25週に起こった新見市での感染性胃腸炎の急激な増加と、同時期に見られた腸管出血性大腸菌O-157感染症の集団発生との関連を疫学的に検討した。高梁阿新地区感染症サーベイランス定点病院の1996年第18週より35週にわたるすべての外来カルテをさかのぼり調査し、胃腸炎症状のあった213名を対象者とした。発症日、下痢や血便の有無などの臨床症状、便培養の結果等を検討し、腸管出血性O-157感染症、感染性胃腸炎、その他に分類し直した。また、腸管出血性大腸菌O-157感染症有症者の発症日別度数分布の解析を行った。その結果、25週に見られた感染性胃腸炎のピークは、本来O-157感染者と診断、報告される患者が相当数含まれたピークであった事が明らかになった。それは、当時の感染症サーベイランス上でのO-157感染症の取り扱い方がはっきりしていなかった事、胃腸炎に対し2つの報告制度が存在し、感染症サーベイランスシステムに問題があったことなどが指摘される。また、新見市におけるO-157感染有症者の発症日別度数分布は、対数正規確率紙にプロットすると屈曲点が認められ、病原菌への多重暴露等幾つかの説明が可能である。整備された感染症サーベイランスによる疫学的情報を適切に利用することにより、将来の腸管出血性O-157の集団感染を予知できる可能性がある。

論文審査結果の要旨

本研究は、1996年新見市で同時期に集団発生したと考えられていた感染性胃腸炎と腸管出血性大腸菌O157の例を、全ての患者のカルテを再調査し疫学的に解析することにより1) 感染性胃腸炎と報告されたものなかにはO157感染者が相当数含まれているのではないかと、2) O157感染では2次感染あるいは多重暴露感染が起きたのではないかと、などの点を明らかにした。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。